

黙示録 14 章 1 節－13 節 スタディーガイド

黙示録 11 章から 13 章では、サタンと反キリストが神様の神殿を建て、それを取り上げイスラエルの民を抹殺することを試みました。
まだ大患難時代は 3 年半残っていますが、14 章ではメシア王国（千年王国）の到来を布告しています。

偽の三位一体の墮落と失敗を示すこと、最後の 7 つの鉢である災難が近付いていること、そして聖徒たちの忍耐を強めるために、7 つの布告をしています。

★ 黙示録 14 章 1 節

また私は見た。見よ。小羊がシオンの山の上に立っていた。また小羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とがしるしてあった。

第一の布告は、黙示録 7 章で、額に神の印が押された 14 万 4 千人が、大患難時代の伝道を終えて、小羊であるキリストと共にシオンの山に立っています。

★ 黙示録 14 章 2 節－3 節

私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。彼らは、御座の前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。

第二の布告は、

2 節「私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。」この声は、14 万 4 千人の伝道師たちが歌っている声です。恐ろしい怒りの声ではなく、勝利をたたえる喜びの叫びと言えるでしょう。

3節「彼らは、御座の前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。」
天の御座の前ですから、14万4千人が天にいることを表しています。

大患難時代の伝道が終わったところで、シオンに立っていた彼らは、携挙のような形で天に到着していると考えられます。

誰も歌うことのできない曲とは、異言のようなものではないかと考えられます。



黙示録 14章 4節-5節

彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。彼らの口には偽りがなかった。彼らは傷のない者である。

4節「彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。」
結婚は神様によって備えられ、祝福されていますから、結婚が汚れているわけではありません。

第二コリント人への手紙 11章 2節で「私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです」とパウロが言っているのは、霊的処女として、異端にかかわらない者のことを語っています。

大患難時代に力強く伝道し続けるのは命懸けです。家族のことを心配せず主の働きを成し遂げるために、独身の人々が選ばれていると考えられます。

5節「彼らの口には偽りがなかった。彼らは傷のない者である。」
霊的にも肉体的にも清い者です。

4節「彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。」
彼らは初穂として贖われています。14万4千人というのは大勢の団体です。

彼らが初穂ですから、この後、同じような穂がたくさん現れるという意味です。
ボツラに隠れているイスラエルの民が、民族的にイエス様を信じます。

また、世界中に残っているイスラエルの民が、メシア王国でイスラエルに帰還して、団体で主の御前にひれ伏します。14万4千人を初穂とし、次々に同じような団体が収穫されていきます。

★ 黙示録 14 章 6 節-7 節

また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」

6 節「また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。」御使いが中天を飛びながら、伝道しています。エルサレムに二人の証人を送って福音を伝え、世界の目がテレビを通して見ている前で、雲に乗って召天する姿を見せました。

また、14万4千人を大患難時代に守り通し、伝道させました。そして、神様側に付く最後のチャンスとして、中天で叫ぶ御使いを送っています。あらゆる国民、部族、国語、民族が、一人でも多く救われるように、神様の愛が注がれています。

7 節「彼は大声で言った。『神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。』」偽の三位一体が、あらゆる奇跡を行って人々を惑わしている時、創造主である神様を信じるようにと叫んでいます。

★ 黙示録 14 章 8 節

また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者。」

第三の布告は、

「また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。『大バビロンは倒れた。』」

反キリストの経済本拠地であるバビロンが、倒れたことを告げています。

現在の経済本拠地は、ニューヨークのウォール街です。

反キリストが立ち上がるころは、世界の宗教を統一して、仲良く世界平和をもたらそうとする状況があり、バビロンが本拠地となっているでしょう。経済もそこが本拠地となるでしょう。

大患難時代の間で、宗教の本拠地はエルサレムになります。しかし、経済は変わらずバビロンであると考えられます。

「激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者。」
世界中を墮落させた者に、神様の激しい御怒りが注がれる時です。



黙示録 14 章 9 節－12 節

また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

第四の布告は、獣の刻印を受ける者は、再び神様の救いを受けるチャンスはないということです。

9 節、10 節「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれる神の怒りのぶどう酒を飲む。」

獣の刻印を受ける者は、自由意志によって獣を拝み、サタンに従う者です。

刻印を受ける意志がない者は、サタンや反キリストを神とせず、神様を汚す悪口に耳を傾けない者です。神様の哀れみと愛によって、力を得て耐え忍ぶことができます。



黙示録 14 章 13 節

また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

第五の布告は、

「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。」
聖徒たちが次々と殺されている時、天からのこの布告が慰めとなることでしょう。

「彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

捕まるのではないかと恐れて過ごす日々から解放され、休むことができるというこの布告は、
聖徒たちに忍耐を与えます。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY